

令和8年度 第2回飯田市行財政改革推進委員会 議事録

日時：令和8年7月27日（月）14：00～15：40

場所：飯田市役所本庁舎 A棟2階 第2委員会室

出席者：清水会長、原委員、佐々木委員、北原委員、田中委員、和田委員、熊谷(良)委員、熊谷(真)委員、森下委員、松村委員、三村委員
高田副市長（行財政改革推進本部長）、岡本総務部長、佐々木企画部長、小澤財政課長、中平デジタル推進課長、櫻井企画課長、伊藤人事課長

欠席者：畠田副会長、遠山委員

1 開会

欠席者連絡 畠田 盛光 様、遠山 典男 様 2名

2 あいさつ

（清水会長）

本日は、大変暑い中第2回目となる行財政改革推進委員会にご出席賜り感謝申し上げます。事前配布資料について、資料の到着時期が本会議直近となったことに対し、委員の皆さんにお詫び申し上げます。以後、このようなことが無いよう改善に努めるのでよろしくご理解賜りたい。

さて、飯田市安心・安全メールが連日発信され、その内容は「熱中症警戒情報」や「クマ出没情報」が大半を占める、自然との共生とはなかなか難しいと感じるところである。お互いに、健康にはくれぐれも留意し今季も乗り切りたいと考える。

本日は、今年度2回目の行財政改革推進委員会となる。内容としては、公の施設の管理方法について、指定管理者制度を導入している施設のうち「令和8年度末に指定管理の協定期間が終了する施設の実績評価と今後の運営方針」を協議することになっている。本委員会は、「指定管理者制度の運用が適正に行われているか」、「効果的な取組になっているか」など、市が評価した内容を第三者の視点で評価する組織に位置付けられている。前回6月17日には、この評価対象施設のうち3つの施設へ伺い視察を行った。視察の結果も踏まえながら、委員の皆さんには評価をお願いしたい。

本日は、合計7つの施設について評価をお願いする。昨年度評価した施設数と比べ、時間的にも余裕があることから、じっくりと内容の評価が行えるものとする。市側からの説明を受け、委員それぞれの立場で意見や提案などをいただき、しっかりとご協議をいただくことをお願い申し上げます、会長のあいさつとする。

（高田副市長）

本日は、酷暑の中、今年度の第2回目の行財政改革推進委員会にお集まりいただき感謝申し上げます。今年度末で指定管理期間が終了する7つの施設について、委員の皆さんに協議をお願いする。指定管理者制度は、民間の活力を導入することで、公の施設をより効率的・効果的に運営することを目的とした制度である。指定管理期間の満了に伴い、先の行財政改革推進本部会議において、各施設の運営状況と今後の方向性について整理を行ったところである。本部会議で整理した内容について、この後担当課より説明させていただく。それぞれの施設について、今後の方向性も含めてご意見をいただければありがたいと考える。

以上、行財政改革推進本部長のあいさつとする。

3 確認事項

(1) 指定管理者制度について 資料1-1から1-3 【小澤財政課長説明】

- ・指定管理施設の第三者評価の実施にあたって 資料1-1
 - ・指定管理施設実績評価及び今後の運営方針検討票について 資料1-2
 - ・指定管理者制度導入施設一覧 資料1-3
- ※質疑・応答なし

4 協議事項

(1) 令和8年度に指定管理の協定期間が終了する施設の実績評価について

- ・指定管理施設実績評価票及び今後の運営方針検討票 資料2

No.1 飯田市南信濃障害者等活動支援センター 【福沢福祉課長説明】

(北原委員)

資料2、3頁3(8)[総合的な評価を]見ると、令和6年度から指定管理者が変更となった旨の記載がある。変更前の指定管理者と変更理由について、回答いただける範囲でお願いしたい。また、同資料2頁[効率性](6)-1支出の備考欄に記載の、赤字部分については、指定管理法人全体の収支の中で補填。という点について、マイナス分は指定管理者が補填し上手くやりくりしているということかと思う。しかし、福祉分野の運営は非常に厳しく大変な状況にあると考える。ホームページで株式会社よろず屋を確認すると、「宅幼老所しろいわ」や「ケアセンター朝顔」など、南信濃八重河内地区内において他にも事業を展開しており、非常に努力を重ねている様子が伺える。地域を維持する上で、同社が管理運営するこれらの施設も欠かせない存在であるといえる。このことから、対象施設における指定管理はぜひ継続すべきであると考えます。

また、事業者には過度な負担がかからないよう、赤字分の補填などについて業者の負担を軽減するような財政的配慮を希望する。

(福沢福祉課長)

令和6年度以前、変更前の指定管理者は飯田市社会福祉協議会であった。変更の理由について、一つは人材確保の観点が挙げられる。障がいのある方との向き合い方は、高齢者の介護ともまた違った側面があり、人材確保が課題であった。また、二つ目には経営に関する問題が挙げられる。資料2、2頁[効率性](6)-1決算状況のうち、令和5年度の決算額にあるとおり、赤字幅が大きくなったことにより経営管理から撤退することとなったという経過である。

財政的な効果として、施設利用者が1人増えることで、年間約70万円の給付(運営収入)が見込める試算である。また、サービスを必要としながらも、利用方法が分からずにいる「潜在的な利用者」が多く存在しているのが地域の現状といえる。同地域内で広く介護保険事業を展開している株式会社よろず屋は、身内の情報や困りごとの相談を受けやすい環境にあることから、事業者が把握している相談実績や地域情報を有効に活用し、事業がより好ましい方向へ進むよう、市として必要な支援を行ってまいりたいと考える。

(熊谷真祐委員)

資料2、2頁[効率性](6)-1収入に記載の授産事業売上とは具体的に何か。また、利用者が増えず給付金収入が見込めない状況が続いた場合、指定管理料の設定を考えているか。

(福沢福祉課長)

施設では、障害のある方が牛乳パックを用いた椅子や箱の製作といった軽作業(授産事業)を行っている。これらを道の駅等で販売して得た売上が「授産事業売上」として計上され、利用者の工

賃（収入）に充てられている。現段階において、市として新たな指定管理料の支払いを決定または具体的に議論している事実はない。しかし、当該施設が地域において必要不可欠な存在であるという認識は共有している。今後、さらに赤字が継続・累積するような状況が生じた場合には、市として必要な財政支援や対応のあり方について、改めて検討を行う必要があると考えている。

（熊谷真祐委員）

承知した。支出状況を踏まえると光熱水費が大幅に増加していることに加え、昨今の最低賃金の大幅な引き上げに伴い、今後は人件費負担の増加も懸念されるため、これらのコスト高騰要因を踏まえた上での慎重な検討をお願いしたい。

No.2 飯田市健康増進施設 【片桐健康づくり推進室長説明】

（北原委員）

本施設は、飯田市にとって非常に重要な施設であり、指定管理者である株式会社飯田健康温泉については、出資金の半分を飯田市が拠出する半官半民の施設と認識している。半官半民の組織は赤字発生時の対応が難しく、経営の甘さが懸念されがちだが、各種資料を見る限りでは非常に工夫して運営されていると感じる。また、施設の老朽化に対する修繕は継続的に必要になると思うが、修繕についても計画的に進められており、必要な管理がうまく行われていると評価する。

行政が関与すると議決等の関係で修繕などのスピード感が落ちがちであるが、資料を見る限り、本施設は順調かつ迅速に維持管理されていると感じた。これまでの努力と順調な運営実績を評価し、今後も継続して指定管理していただくよう期待する。

No.3 飯田市山本都市農村交流促進施設 【荒尾ツーリズム振興室長説明】

※質疑・応答なし

No.4 飯田市北田遺跡公園 【下平文化財保護活用課長説明】

※質疑・応答なし

No.5 飯田市野底山森林公園 【三浦林務課長説明】

（北原委員）

自分自身、上郷上黒田地区の出身であり現在も居住していることから、野底山森林公園は非常になじみ深いところである。評価と多少ズレが生じるかもしれないが発言する。

近年注目されているキャンプ場や、モーリーの森交流館、ログハウスなど、当該施設は大変有効に活用できる施設であり、飯田市の目玉になり得るポテンシャルを持っていると考える。資料2、21頁3[有効性](3)アンケートなどによる利用者の声・評価の説明と、利用者数が減少傾向にあり、熊出没の影響もあるとの説明をお聞きしたが、地域密着型の運営にとどまらず、外へ向けたアピールを強化して交流人口の拡大をさらに図るべきであると考えている。

先日開催された「焼肉ロックフェス」では、昨年を上回る6,500人が来場し、県外からの参加者からも施設の環境に対して高い評価を得ている。こうした実績を基に、更に活用出来たらと期待する。所管部署の林務課だけでなく、観光に関する部局とも連携して新しい切り口での利活用を検討し、指定管理者（まちづくり委員会）へ提案していくような体制を整えていただければ、更なる発展に繋がるだろう。活性化を強く期待している。

（三浦林務課長）

北原委員のご意見のとおりと感じた。SNS等を活用し、幅広い層に向けて積極的にPR・情報発信を行っていきたい。また、林務課は産業経済部に属しており、同部内ツーリズム振興室で

は「飯田市西部山麓観光エリアビジョン」を策定したところである。他の施設とも連携しながら効果的な情報発信に努めてまいりたい。

No.6 飯田市下久堅ふれあい交流館 【小林結いターン・移住定住推進課長説明】

(熊谷真祐委員)

資料2、31頁3[効率性](6)-1、決算状況の支出の欄を確認すると、人件費に相当するものの計上は無いが、当該施設の運営に携わる方は皆ボランティアであるのか。

(小林結いターン・移住定住推進課長)

その通り。まちづくり委員会で運営していることからボランティアである。

(熊谷真祐委員)

前回6月17日の現地視察時、初めて当該施設内を見学した。飯田市民でありながらこれまで訪れる機会がなかったが、次世代に継承すべき非常に素晴らしい文化的施設であると実感した。伝統的なひさかた和紙(和紙製造)は、高度な技術を要し、原料の生産にも多大な手間がかかる。

現在、施設の運営や技術の維持は、ボランティアの方々の尽力に頼っているとのことであったが、適正な対価が支払われなければ、今後の継続や後継者の育成は極めて困難になると懸念している。野底山森林公園や杵原学校など、市内の他の施設を見るに、相当な額の指定管理料が支払われていることが分かる。本施設は、より多くの一般市民が見学に訪れるべき価値のある場所であると考え、運営ボランティアへの適切な報償を可能にし、広く市内外からの来訪者を受け入れられる体制を整えるためにも、十分な予算(指定管理料)の措置を強く要望する。

(小林結いターン・移住定住推進課長)

先ほどの説明の中で、まちづくり委員会で運営していることからボランティアである旨回答したが、以下のとおり補足する。まず、ひさかた和紙の会で、実際に体験指導を行っている方々については、完全なボランティアでない。また、ひさかた和紙の体験者に対しては体験料を徴収しており、その体験料は、施設の使用を許可されている「ひさかた和紙保存会」へ直接入る仕組みである。そのため、保存会内部から指導者へどのように支払いがなされているか、詳細な内訳までは把握していない。紙すき体験の体験者数について、令和7年度実績で1,077人であった。

No.7 飯田市松尾天竜グラウンド 【教育委員会堤社会教育担当参事説明】

※質疑・応答なし

(清水会長)

全体を通してご意見はいかがか。

意見なし。

(清水会長)

委員会としては、個別の施設ごとに委員から出された意見と、各委員が記入した「評価集約票」をもって、第三者評価の結果とする。

5 今後のスケジュール 【小澤財政課長説明】

○今年度の行財政改革推進委員会の開催予定

・第3回(令和9年3月末頃 予定)

行財政改革大綱に基づく実行計画(令和8年度の取組・9年度の計画)ほか

6 その他

(小澤財政課長)

評価集約表について、庁内において8月3日に開催する飯田市行財政改革推進本部会議にて内容を共有し、各施設の方針決定を行う予定である。集約内容や決定方針は、改めて委員の皆様にお知らせする予定である。

(高田副市長)

清水会長はじめ、委員の皆様にご協議いただいたことに感謝を申し上げます。本日の評価内容と、頂いたご意見を踏まえ、この7つの施設についての来年度以降の運営の方針等について整理を行い、必要な手続きを進めてまいりたいと考える。

また、行財政改革推進本部会議では、年度末に向けて「飯田市行財政改革大綱（2025年度～2028年度）に基づく実行計画」に向けた整理を行っていく。整理が整った段階で改めて第3回目の本委員会を開催し、委員の皆様にご審議をお願いする予定である。次回は年度末の大変お忙しい時期の開催となるがよろしくお願いしたい。

本日の行財政改革推進委員会においても、委員の皆様から大変貴重なご意見・評価をいただいたことに改めて感謝申し上げます。

7 閉会